

第5回新しい学校づくり阿南市地域協議会議事録

議事

- (1)新しい学校の教育内容等について
- (2)新しい学校の特色ある教育について

設置学科と生徒募集(案)について

委員

現在の阿南工業高校の工業科と新野高校の総合学科が、併記され、生徒募集も工業科は小学科で、総合学科は一括募集ということで、一貫性がなく、ねらいがはっきりしない形です。また、前回、中学生の実態からすると、入学後、力をつけてからコースに分かれて進路を選択できる一括募集が望ましいという要望をさせていただきました。共通理解といわれたらちょっと納得できないのですが。

会長

共通理解という表現が適切でなかったかもしれませんが、前回の協議会では、多数の委員の方が、この方向で行くということになっております。

委員

私も、工業科も一括募集が良いと思います。小学科ではなく、高校1年生で基本的なことを勉強して、自分の方向を見つけていくということを中学校の先生が要望されているので、多数決ではなく、その意見を尊重すべきだと思います。

会長

この件については、前回もかなり時間をかけて、話が行われました。工業科の小学科の募集については、事務局から、専門性をより高めたプロフェッショナルとしての目的意識を持った生徒を育成したいという説明がありました。両方の意見があると思います。事務局いかがでしょうか。

事務局

前回、工業科も一括募集がいいというご意見と、阿南地域は工業が盛んであるため、地域に残り、職業を支えるような人材を育成するということから、小学科制が良いというご意見がありました。大切なことなので、さらに、ご意見がありましたら、伺いたいと思います。

委員

新しい学校開校時には、生徒数が減ってきます。今は4コースありますが、それを3コースに絞ることを提案しました。今の一括募集の類コース制では、あるコースは5人しか希望しないという現状ができています。このままでは、あるコースを設置できず、必要な教育がなくなってしまう可能性があります。

また、その学科の目標に沿って、地域の産業をきちんと支えられる生徒を育てるため、1年生の段階から資格取得のための専門教育ができる小学科制にして、目的意識を持った生徒を集めたいという願いをしました。今の阿南の地域の状況を考えたとき、機械、電気、建設の3つの教育を確保する必要があり、定員をきめて募集できる小学科制がいいと考えております。

委員

両方とも、いい所があると思います。教育をされている先生が感じていることを、我々は大事にしたほうがいいのではないかという気がします。

委員

私は機械科を卒業していますが、小学科が当然であるように感じます。一括募集については、自分にはそういった経験がないのでピンときません。例えば、Aの科は希望者が多いけれども、Bの科は希望者がいない“0”という場合に、どうするのか分かりません。私は工業科については、小学科で募集するのが当然であると思います。

委員

希望がなければコースができないというご心配は分かりますが、逆に考えた場合、最初から小学科をつくるということは、そこへ行きたくないのに、定員が決まっているから行くしかない子どもがいることになります。最初から学科を作って、希望がなくても、合格するためにここに行きなさいというのはいかがなものかと思えます。

委員

一括募集の場合、高校2年、3年の段階でそれが調整できるかどうかですね。高校生になって選択時期が1年遅くなっても、行きたくないコースを選択する生徒が出てくるのではないのでしょうか。

委員

徳島工業高校は類コース制ですが、ぴったりには分かれず、40名と27、8名とか、その差は出てきます。しかしながら、1つのコースが0名ということはなかったと思います。第1希望でなくて、第2希望で行かざるを得ないということはあります。完全に生徒の第1希望だけを優先するというのは難しいです。

委員

徳島工業高校の場合は2つの類に分けて募集しています。また、今度の徳島科学技術高校も、類コース制ですが、機械技術類、電気技術類、建設技術類の3つの類に分けて募集して、その中で2つのコースに分かれていきます。

阿南工業高校ではそれをひとまとめに募集しているため、2年生でコースに分かれる時に非常に調整が難しく、実習もやりにくい。そのため、小学科制にして最初から枠を作って、きちんとした教育をやっていきたいということです。確かに、中学校での学科選択は大変でしょうが、高校になっても、同じようにコース選択は大変です。

委員

中学校の子どもの希望は、そんなに鮮明でない場合もあると思いますが、定員の関係で、やむを得ず学科を変更するという事はあると思います。この問題は、中学校の先生や高校の先生が苦勞されているあたりのご意見を尊重せざるを得ないという感じがします。

委員

私は阿南工業高校機械科出身ですが、機械科で学習するおよその概念で、材料や力学、機械要素的な勉強が多くて、生徒が想像するメカニク的な学習内容は少ない。機械科出身の私でもその程度のことしか中学校段階では生徒に話すことができません。ただ、以前よりは学科の説明について、高校体験入学とかいろいろな機会を作って下さっており、インターネットでも調べたりできるし、進路学習が進んできています。そんな中でも、選択の自由さとか幅の広さ、或いは、単純に興味を引かれるものを選ぶという表面的な進路選択がかなりの部分でなされているのが中学校の現状ではないかと思えます。

阿南工業高校と新野高校が合体して魅力ある学校にしていこうという狙いからすると、阿南工業高校コースと新野高校コースの単なる合体にしか見えない、感じられないのであれば、現状の両高校に対する中学生及びその保護者の希望状況の実態からしても魅力的にはなりにくいと思われれます。今までに無い、たくさんの科やコースが設けられており、幅広い進路選択に対応できる高校になれば、その可能性・柔軟さが魅力になります。そういう意味で、富岡東の商業科(富岡東は、普通科、商業科、看護科の羽ノ浦校、それに中高一貫校と多岐にわたることもあり)も含めて検討していけば、この会の名にもあるとおり、まさにこの阿南地域全体を考えた新しい学校づくりになっていけると思えます。当然、入学の動機は幅広くカバーし、入学後は生徒自身の適性に合わせたコース選択や学習のできる深さで勝負のできる、一括募集の高校でなくてはならないと考えます。

委員

総合選択制が導入されることにより、自分の興味に合わせて選択できる選択科目を設けて、新しい学校の魅力づくりを進めていくことが提案されていると思えます。

会長

全員が一致して賛同したということではございませんが、事務局から提案されているように小学科で募集するという事で、ご理解いただけたらと思えますが、いかがでしょうか。

特色ある教育について

委員

新野高校と阿南工業高校の現在の課程をそのまま併設という形にしております。住民の方から、問い合わせや色々ご意見を聞きましたが、失望感が強いです。平成30年を目指して、県南に素晴らしい新しい高校ができるんだという、もう少し夢のある、遠大な構想が出せないかというの

が一般住民の感覚です。

新しいキャンパスに、素晴らしい高校を作ったらどうかと申し上げたことがありますが、今回の場合は、併設で、その中で総合選択制という新しいイメージを出そうとしています。苦肉の策だと思います。県南で唯一の総合高校的なもっと幅広い選択できる多くの科目を設置して、この高校に入って主体的に自分の進路を判断し、先生方も的確に進路指導ができるような、もう少し幅の広い課程が設定できないかという思いがあります。

会長

新しい場所に設置できるのであれば、それが一番いいことですが、県の財政状況が厳しいなか、それができるかという問題があります。

委員

できるのであればでなくて、できるような発想で当たっているということ、私は前提にしたい。お金がないからどうするという限定された話ではなくて、知事はオンリーワンといっているのだから、将来のことを考えた場合に、そのくらいの思い切った、勢いがあってもいいのではないかと思います。

委員

その通りで、地域住民の期待は大きいんです。我々はそれにどう応えるかという責任があります。施設について、どんな提案があるのか分かりませんが、財政状況から、物事を決めていっていいのかということです。県南部の中高一貫教育校の導入についても、経済的理由が優先されたのではないですか。

会長

中高一貫教育の導入など、海部も含めて県南全体の教育については、この地域協議会の議論ではないと思います。阿南工業高校と新野高校を1つにして県南の職業教育のメッカとなる素晴らしい高校を作るということを中心に考えたいのですが、いかがでしょうか。

委員

今の県の行政とか、教育行政の現状、その枠内で決めてほしいということですが、それだと地域協議会をする必要がないと思います。枠内で考えるのであれば、事務局の方が考えた方がいいのであって、我々は、住民とか子どもたちの意見を代弁するために地域協議会に来ておりますから、そういう枠に拘束されずに、本当に素晴らしい理想的なものを作っていくための議論をするべきではないでしょうか。

委員

地域協議会が出発した数年前と今とは財政状況が全然違いますので、無茶を言っても無理な話です。ただ、2つの学校を再編して、魅力的な学校を作るということで、教育内容も当然ですが、施設の問題もあると思います。県教育委員会として、どのくらいの予算で施設を考えているのかを、同時に考えていかないと協議が進まないと思います。

先日の中高一貫教育の導入について決定した経緯もあり、再編についても、大体のお金の使い方が分かると思いますが。

県教育委員会

中高一貫教育の導入にかかる経費とは直接関係ありません。また、今回、協議していただいている新野高校と阿南工業高校の再編につきましては、特に予算がいくらというものがあるわけではありません。ただ、高校再編方針の中にも書かせていただいておりますが、既存の施設を有効活用していくという姿勢です。新しい教育をするのに必要な施設が不足すれば、整備をする必要がありますが、使えるものはできるだけ使っていくということです。

委員

平成14年2月に策定された「徳島県高校教育改革推進計画」には、「新たな学校づくりに対応した施設・設備の充実は、高校教育改革推進において極めて重要である。高校再編・学科再編計画を踏まえ、校舎改築を含めた施設・設備の計画的整備を行う。」と書いてありますが、もうそういう時代じゃないということですね。

県教育委員会

平成14年に計画が策定されたときは、財政状況が大きく変わっております。

委員

教育施設を提案していただいて、総合的に考えたらどうですか。

会長

逆に、特色ある学校を作るために必要な設備を考えていく方法もあると思いますが。

委員

財政が限られているので、無制限にやってくれるかといったら、そんなことはないと思います。どんな施設を作るのかを聞いた上で内容を考えなければ、議論が進まないと思います。

会長

教育内容が決まらないと、必要な施設が決められないと思いますが。

委員

既存施設の有効的利用ということを考えたら、逆に教育内容が絞られる可能性があると思います。

委員

阿南工業高校でやるのか、新野高校でやるのか、両方でやるのか分かってない段階でそれを考えるというのは難しいです。それぞれの校舎を置いて使うというのが前提であるならば、それなりのことを考えなければいけないし、ここへ作ろう、あそこへ作ろうということであれば、それを

考えなければいけないと思います。

会長

まず、特色ある教育についての案ですが、これで不都合なことがございますでしょうか。

委員

参考資料の中で、両校の素晴らしい活動内容が新聞に取り上げられおり、中学校でも新野高校から花をいただいて、いい方向でいろんなことをさせていただいています。しかし、このことが子どもや親御さんの希望する、人気、動機には繋がっていないという現状からすると、この特色ある教育だけでは生徒を集められません。

また、総合選択制だけでカバーできないと思います。新しい高校を目指していく上で、新しい魅力ある学科を考えるのであれば、地域協議会で一生懸命議論する価値もありますが、工業科と総合学科が合体するだけであれば、専門家同士で内容を研究、相談すればいいと思います。

委員

中学3年生にすれば、現況の阿南工業高校と新野高校が、ただ一緒になったんだという受け止め方しかできないと思います。総合選択制は、その中で唯一新しい感じは受けますが、新野高校の総合学科で既にそれをやっていますし、富岡東高校へ行こうと思ったけど、新しい学校へ行こうかという子どもたちや保護者が主体的に判断できるような、魅力に欠けると思います。

委員

我々が、新たな学校ということで、枠を超えてまで要望する、作るんだという意欲のもとに話をするのか、それとも、お金がないので、学科をちょっと手入れして「魅力ある」という表現で、表現は魅力あるのだけれど、内容的はそうではないということになってしまうのかという問題があると思います。

会長

色々なご意見がありますが、6番目の「教育施設について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

説明の前ですが、新しい高校は、阿南工業高校の校地を使うとか、新野高校の校地を使うとか、また、両方使うとかについて、事務局として決めてはおりません。校地に関しましては、委員の皆様から、阿南工業高校だけを使う場合は、どんな教育のメリットがあるのか、デメリットがあるのか、新野高校だけを使うのであればどうなるのかなど、今後の資料の提示についてご要望を受けてから、提示させていただこうと考えております。

委員

例えば、鳴門の協議会なんかは、鳴門工業高校にすると決めてましたよね。ああいった形で、この協議会でも場所を議論すると思いますが、次回というのは、今年度にもう1度あるんでしょうか。19年度までにまとめることになっていたと思いますが、20年度まで続くのですか。委員は変

わるんですか。

事務局

今年度末までに、協議内容を取りまとめることは時間的に難しい状況です。委員につきましては、充て職の方に関して、変更があると考えています。

県教育委員会

どちらの校地であるかということは、地域協議会で決めていただいております。鳴門市地域では、鳴門工業高校の校地、それから吉野川市・阿波市地域では、鴨島商業高校の校地ということ、地域協議会のご意見として、報告書に取りまとめていただいております。

阿南市地域協議会も、教育内容を固めていただきましたら、どちらでやった方がやりやすいかというご意見が出てくると思いますので、校地についてご協議いただきたいと考えています。

委員

2回目の協議会だったか、私が新しいキャンパスを作るべきだと申し上げた時に、県教委は、財政的な理由で、両方の施設を有効活用しますという答えをおっしゃったんですが、その次に総合選択制の問題が出たときに、総合選択制を承認していただいたら、施設は1カ所にしますということです。今日、改めて両方の施設を活用しますというふうに言われましたが、どうなっているのでしょうか。

県教育委員会

前回、「2キャンパスですよ」という聞き方をされましたので、「いいえ、2キャンパスは決まっています。1キャンパスです。」と申し上げたと思います。その後で、総合選択制の話が出たときに、「総合選択制にするのなら、キャンパスは1つになりますね」と委員がおっしゃったと思います。総合選択制を導入すれば、2カ所に分かれていると総合選択制は難しいですから、1カ所がいいということになります。

そのように教育内容が決まってくると、この教育内容を実施するには、どういう形で生徒がいる方がやりやすいのかというのが、でてくるのではないかと思います。始めに、こっこのキャンパスありきとか、2つのキャンパスありきというものではないと思います。

委員

第3のキャンパスというのはいないんですか。

県教育委員会

それは考えておりません。

委員

絶対ですか。第3というのは、都合が悪いのですか。

県教育委員会

既存施設を有効活用していくということで、既存の校地を活用していきます。

委員

それは県教委が決めたことでしょう。我々がこの協議会として、それではだめだということに意見がまとまった場合には、受けてくれるのでしょうか。

県教育委員会

県の財政状況が非常に厳しくて、教職員の給与カットまでしている時代です。そういう中で、第3の土地を探して、そこでやれとおっしゃられても、財政的に難しいと思います。

委員

土地は2校のうちのどちらかを使うにしても、施設についても、現在の建物を使うということですか。1カ所ですとすれば、施設が不足するので、新しく作る必要があると思いますが。

県教育委員会

基本的に耐震化して使えるものについては、新築しないで耐震化していくということです。既存の施設で不足して、何かを作らなければ新しい教育ができないのであれば、それは整備を考えるとということです。

委員

例えば、阿南工業高校でやるとして、農場的なものは阿南工業高校にはないので、新野高校までいくのではなしに、阿南工業付近に作るというわけですか。

県教育委員会

その案になったときに、どこでどうするかということを検討していくことになると考えています。

委員

仮に阿南工業高校になった場合に、耐震化や不足施設の改築には、かなりのお金がかかると思います。耐震工事をした場合に、その後もかなりの期間使えるのであればいいのですが、僅かな期間しか使えないというのであれば、それは無駄になります。それならば、新しく全部やりかえるとか、そういう所まで話をする必要があると思いますが、最初のお金だけに縛られると、耐震だけやって足りないところは増築するという発想でこれをまとめなければならないのでしょうか。

委員

高校再編方針という枠の中では、我々は責任を持ってないということで、協議はまとまらないこともあるわけですね。

委員

もう少し前向きな考え方がある気がします。校舎の耐震化に関してですが、教育委員会で案を認めていただいたとしても、県議会が通らなければ実現できないわけですから、教育委員会とし

て、議会に通るか通らないかという、最終的なことを考えてのご意見だと思うんです。予算という現実的な問題もあると思いますが、基本的には阿南工業高校と新野高校の2つの高校の教育理念や教育内容のところまで話が煮詰まってきたと思いますので、その中味をきちんと決めて、協議していくのがいいのではないかと思います。

また、阿南工業高校と新野高校をくっつけただけというご意見もありますが、阿南工業高校では、工学系の基本的な技術力を持った人材を育てており、地域の産業を担っていく方や、進学して行かれる方もいたり、先生も育てています。新野高校でも同じように、地域に貢献されています。本当に全ての人が阿南工業高校、新野高校に仕方なく行ったんだらうか、阿南工業高校に行ったら良かった、新野高校に行ったら良かったと思っている方もいると思います。その中には、地域の中で地域を支えている方もたくさんいらっしゃると思いますので、そういうスタンスをできるだけ活かしながら、総合的な高等学校を継続していくということを考えたほうがいいと思います。

委員

地域協議会の設置の趣旨というのが、住民の意見を聞いてそれを反映していくというふうに理解しているのですが、協議が議会の動向とか、あるいは現在の教育行政や財政的な枠の中で、それを条件にして協議されるというのでは、設置した意味がないと思います。

例えば、お金がないので新しい場所ではできませんということはわかります。しかし、地域住民の意見として、夢として、新しい場所に新しい高校を作ってほしいというのがあると思います。協議会の話し合いの中でこういう意見が多ければ、県教委に答申してもいいんじゃないですか。

県教育委員会

地域住民の方の意見を反映して、新しい高校を作っていくという趣旨で地域協議会を設置させていただいていますが、高校再編方針を踏まえ、新しい学校のあり方や再編に向けた学校間連携等について検討を行って、その結果をご報告くださいという前提があります。

高校再編方針の中では、施設については、既存の校地、既存の施設を有効活用していくということにしております。その後、県の財政も非常に厳しくなっているということで、新しい場所に新築するというのは難しいので、既存施設の有効活用する中で、皆様のご意見を反映してできるだけやっていこうということにしております。

そして、新しい教育を進めるにあたって、その既存の施設で足りない分については整備していきますが、既存の施設が使えるのに新築するというのではなくて、使えるものはできるだけ使ってやっていきたいということで、ご理解をいただきたいと思っております。

委員

おっしゃることはよくわかります。新しい土地を買って、一から作るというのは無理です。ただ、新野高校の総合学科と阿南工業高校とを合わせて1つの魅力ある学校を作るなかで、工業的なことはここでやって、農業的なものを向こうでやるというのでは、住民の理解が得られません。

どう考えても、阿南工業高校を中心にするか、新野高校を中心にするかということです。阿南工業高校を中心になると、農業的な施設がなく、実習のために向こうまで行くわけにいきませんから、こっちで作らなければいけません。逆に、新野高校を中心になると、工業的な施設を整備しなければいけません。かなり経費がかかるとは思いますが、それを本当にできるのかどうか。我

々がここで新しい学校を作りますという方針を出した場合に、農業教育や工業教育に必要な施設を作ってくれるかどうか心配なんです。

委員

座学とかは阿南工業高校で実施して、農業の実習は新野高校に行ったらいいと思います。農業施設などの管理の一部分については、地元のボランティアの方をお願いしたらどうでしょうか。大学でも実習に遠くまで行っていますが、実習に行くというのは、学生にとって気持ちも新たになるし、今まで培ってきたものを守っていけるのではないかと思います。

委員

午前中向こうに行って、午後こっちに帰ってくるとか工夫すればいいと思いますが、現実的に距離がかなりあるわけですから難しいのではないのでしょうか。

また、交通の利便性からすると、新野高校の方がここよりJRの駅に近いですね。新野高校を中心にするとなると、工業的な施設を、向こうで作れるのかどうか、そこを示してくれないと、校地を決められません。

金は出せないけど、決断は地域協議会でしてください。後で「なんでそっちに作ったんだ」という議論になったときに、「地域協議会が決めたことですから」とされるんではないですか。

事務局

両校の施設の状況を委員の皆さんに説明して、その後で、どちらの高校の方が新しい教育を展開しやすいかということを協議していただきたいと考えております。まず、資料の説明をさせていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

会長

事務局から施設の状況について、ご説明をお願いします。

教育施設について

会長

耐震化については、大きな差はなく、両校ともに耐震工事をするようになりますね。

委員

普通科をどちらかに作るというのであれば、建物や体育館の広さで考えられますが、農業や工業の施設が絡んできます。阿南工業高校にした場合は、農業施設が必要になり、新野高校にした場合は、工業施設が新しく必要になります。事務局が専門的に計算して、こちらにした場合は、設備するのに何億いると言っていたら、提案のとおり安い方にしませんかといえますが、そういう提案が全然ないので、我々が考えても分かりません。

県教育委員会

事務局が教育内容についてある程度煮詰めていただきたいと申しましたのは、例えば、総合学科で農業の教育をしておりますが、従来の農業科とは違いますので、どの程度の専門的な教育をして、どの程度の実習施設がいるのか、また、工業の場合はどの程度いるのか、といったことについては、教育内容が決まらないと、どの施設をどう使うか決められません。まず、統合にあたってどんな教育内容が相応しいのかということ煮詰めていただけたら、先ほど言ったことを順番に考えていけるのではないかと思います。

委員

専門知識がないですから、工業や農業の教育をどこまでやるかというのを、我々で検討するのは無理と思います。

県教育委員会

事務局の方から、工業科では新しい3学科をしたい、総合学科では4つの系列でしたいという案を提示しておりますので、その方向でいいとか、工業にもう1つ学科がいるのではないかと、この科より別の科がいいのではというご意見がまとまれば、施設など教育環境の整備について案が提示ができると考えております。

事務局

このままの教育内容でよければ、次回事務局から、教育内容に沿って、例えば阿南工業高校で行う場合は、この実習棟に関しては農業の実習施設に改修することが可能であるとか、逆に新野高校の場合はどうなるか、という案をご提示することができると思います。今回お示した案で次回、施設の提示をしてよいか議論をお願いします。

会長

我々が一番心配しているのは、特色ある学校ということで、地域にインパクトを与えられるようなものが不足しているということです。例えば、スポーツ健康学科のようなものができないですか。工業と総合学科の他にそういう学科はできるんですか。

事務局

事務局といたしましては、今まで両校が大事にしてきた教育を引き継いでいきたいということで、新しい学校の規模を考え、総合学科については、4系列の展開、工業科については、3つの小学科が適当であるという案を提示しております。新しいものを取り入れることは可能ですが、今ある教育内容のどこかを削って新しいものを入れるという案の提示になってきます。

また、スポーツに関しましては、阿南工業高校も、新野高校も部活動を一生懸命しております。例えば、今の阿南工業高校と、新野高校の野球部が一緒になることによって、規模も大きくなって、さらに活性化された部活動ができると考えております。スポーツ科はできなくとも、両校が一緒になることにより、スポーツ活動を盛んにすることができるかと考えております。

会長

そうは思いますが、特色ある教育という点で、打ち出しが弱いと思います。

県教育委員会

今まで報告書をいただいた他の地域の状況を報告します。生徒数が減少していく中での再編統合ですから、別の大学科を打ち出して行くと、他の既存の学科を縮小していかなければなりません。そのため、他の統合の事例では、大学科の新設ではなくて、工業の中の小学科、商業の中の小学科などの新設により、魅力づくりを進めております。

唯一、鳴門市だけは、工業科をなくし、情報教育を鳴門第一高校の総合学科の中で引き継ぐという形で、体育科という新学科を打ち出して、報告書としていただいております。

生徒が減っている中で学科を増やす、そうすると既存の学科を逆に縮小しなければいけません。その隘路がございますので、その辺もお含みいただけたらと思います。

県教育委員会

他の地域協議会でも、2校の伝統とか今まで培ってきた教育をしっかりと受け継いだ学校にしてほしいというご意見と、新しい学校を作るんだから何か新しいものをという、各委員さんの葛藤がありました。その中で報告書をいただいておりますので、阿南市地域もどういう学科がこの地域に相応しいのかをしっかりとご協議いただけたらと思います。

委員

福祉関係の人材というのがこれから先も不足していくだろうといわれています。資格なんかも取るという職種もたくさんあるのですが、総合学科の中でそういう福祉関係の専門的な教育ができるようなものを打ち出せないのですか。

事務局

総合学科で福祉系列を持っている学校が、城西高校と鳴門第一高校にあり、現在、介護福祉士の国家試験受験資格が得られます。

現在、介護福祉士の免許を持っている方は大勢いますが、実際に福祉の現場に出て、働いているという状況が少ないという現状があります。介護の質の向上ということで、厚生労働省等で資格等の検討をしておりますが、介護福祉士を受験する資格を得るための時間数が非常に多くなりました。質の向上のためには時間数を確保するというので、高校を卒業しただけでは受験資格の取得が非常に難しい状況になっています。

また、平成25年度までは移行措置がありますが、今の見通しの中では、平成25年以降に関しましては、総合学科で福祉関係の教育を受けても、更に専門的な養成施設や大学へ進学しないと国家試験を受験できないような状況になってきています。また、訪問介護員(ホームヘルパー)という資格に関しても、なくす方向で検討にはなっております。

このように、福祉教育につきましても、卒業後すぐ資格に繋がるという教育をすることは難しい状況となっており、福祉に関する学習をする科目を設定して、魅力づくりをするということはできませんが、資格取得を目標とした魅力づくりというのは、難しいと考えております。

委員

再編が7年ぐらい先ですので、伝統も大事ですが、これからどういうふうなニーズがあったり、

どういう社会に人気があったりという部分もしっかり考えないといけないと思います。

今現在、阿南工業高校と新野高校の志望がかなり少ない。今後少子化という方向に向かっていくと、今のままの工業科と総合学科では志望はさらに少なくなっていくと思います。スポーツとか、商業も入れて、みんながあつというような魅力あるものにし、保護者のニーズ、子どものニーズに応えないと、7年先が苦戦するのではないかと思います。

事務局

総合学科に新たに情報ビジネス系列というのをに入れております。商業科は設置していませんが、新しい学校の魅力づくりとして、商業教育を取り入れる方向で、事務局案を提示させていただいております。

委員

特色ある教育についてということでは、結論は急がず、子どもたちが魅力を感じて、この学校へ行こうという新鮮さとインパクトを与えるようなものを作っていくということにさせていただいて、もう少し時間をかけて協議したらどうでしょうか。

委員

ボランティア活動を推進してはどうでしょうか。参考資料の中にある記念植樹をしている新野高校生の記事の下に「地元の地域振興協議会の住民ら700人が、開園に合わせて公園前を流れる桑野川沿い約5キロを一斉清掃した。」とあります。そういう社会人を積極的に育てていく学科を新たな特色にすることも視点にいれて考えたらと思います。地域の中で実際に700人を動かして、新野高校が活動しているのだから、学校支援のボランティア的なもの、地域社会を巻き込んだようなものに視点を置いたらと思います。

委員

子どもも大人も、自分の生活を豊かにするという発想で、学校を選んだり就職先を選んだりするけれども、国を豊かにするとか、地域を豊かにする、そういう思いを若い時から育てることが非常に大事だと思います。ボランティアというか、地域の取組を通して、そういうものの発想を育てる、人材育成の観点が大変だと思います。

委員

これからは地域を巻き込んでいくことが必要だと思います。地域社会との関連が特に高校は遅れています。新野高校には、クリーンウォークラリーがあるわけですから、こういうことを活かしていくことが新たな魅力になると思います。

会長

今回は、両校の設備をどう活用するかということ資料として示していただきたいと思います。

事務局

教育内容を決めていただければ、施設についての資料を準備することができませんの

で、そこをご協議いただきたいと思います。

会長

教育内容につきましては、特色ある学校としてのインパクトがないから、他に何かないかということで色々ご意見が出ましたけれども、とりあえず、この教育内容でどうなるかということで提示していただきたいと思います。

事務局

それでは、この2学科で施設のことを考えさせていただいて提示いたします。また、特色ある教育については、今回のご意見を踏まえて、再提示したいと思います。

会長

最後になりますが、他にご意見、ご質問ありますか。

委員

新野高校、阿南工業高校の校長さんや職員の方の思いが色々あると思います。この場では言いにくい面があると思いますが、それを聞かせていただければと思います。

委員

阿南工業高校としては、地域の産業に応える工業教育という意味で、3学科を提案しております。

委員

新野高校としては、教育内容の充実ということで、1系列増やしてビジネスに関する教育を新たに導入していきたいと提案しております。

委員

新しい学校づくりということで、夢や期待を持ってこの会に委員として臨んできたのですが、最初にある程度線を引かれていて、我々はそれを納得しなければならないのかとったりして、どうかと思っています。財政が厳しいという面も現実的にあると思いますが、夢がなければいけないと思います。大人が夢を忘れて子どもが夢を持てるかということ、それはないと思うので、そういう所の思いというのを大事にしながら議論が出来ていないのが、ちょっと残念と思います。

委員

はじめに結論ありきのようで、運動場の広さなどの既存の校地や施設から、財政上の現実問題として試算しているのではと感じます。

委員

平成30年完成で、今から7年とか10年ありますが、情勢やニーズの変化など、動きの激しい状況が続いていくと思いますが、ここで決めたら、そのままということになるのですか。

県教育委員会

地域協議会から報告書をいただいて、それを尊重するような形で県教育委員会で再編計画案を作り、パブリックコメントという形で広く県民の方から、ご意見をいただきます。その意見を参考にしながら、正式な再編計画にしていくという手順で進めます。

再編そのものは再編方針でもお示している通り、平成30年度を目途に県下7地域全部の再編が終わるように進めていくということでございまして、報告書をいただいたところから、計画案を作って順次進めているということでございます。

報告書をいただく時に、今まで出していただきました鳴門市地域、吉野川市・阿波市地域については、再編の時期についても地域協議会の要望としてできるだけ早く再編してほしいという形で報告書をいただいております。時期について、できるだけ早くしてほしいとか、或いは地域の生徒数の状況も見たら、ゆっくりでもいいとかというご要望があればいただきたいと思います。

委員

我々の認識が間違っていたのかも分かりませんが、阿南工業高校と新野高校の場合、27年に再編が始まり、30年に統合が完成するというふうに受け止めていたんですが。

県教育委員会

30年度までには、7地域すべての再編をやりたいということで、どこをいつというのは特に決まっています。吉野川市・阿波市地域ですと、できるだけ早くやってほしいというご要望ですので、教育委員会としても平成24年度に統合するという案を作って、今、パブリックコメントを実施しております。この地域協議会の要望がありましたら、お願いいたします。

委員

工業科と総合学科がありますが、その2つで校地を阿南工業高校にするのであれば、どういったものが足りないからどの程度お金が要るとか、新野高校に持っていくのであれば、どういったものを作る必要があるのかということ、ある程度想定した上で、それを比較しておかないと話が進まないと思います。

委員

私も同意見です。また、この後の協議会のタイムスケジュールを教えてください。これで最後だと思っていましたから、いまの委員が参加できるように3月中にしてほしいと思います。

事務局

申し訳ありませんが、3月中に教育内容や経済的な面などすべてを考慮して、施設設備についての資料を検討して作成することは難しいと考えております。

県教育委員会

我々もできたら本年度中にやりたいと思いますが、実際にスケジュールを見れば、今日はもう3月7日でございますので、年度内に再度開くというのは無理かと思っております。